

「鷹見の里」から “いのちの輝き”を見つけよう

愛知県豊田市立 上鷹見小学校

5年 島村祥光・中山捷希
御沓奈々・丹羽萌々音



学校紹介

上鷹見小学校は、自動車産業が盛んな豊田市東北部の山あいにあります。明治5年創立、139年の歴史のある学校です。全校児童25名の小さな学校ですが、兄弟のように明るく仲良く元気よく生活しています。自慢は、「鷹見の里」と呼んでいる学校周辺の自然です。校歌の中には、「山々のみどりのはざま」「鷹見し岩」「つくばねの実」「ササユリ」といった言葉がちりばめられ、校章のデザインは、ササユリです。



活動場所の紹介

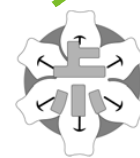
- わくわく山……運動場の南側の山です。毎年斜面にササユリが咲きます。手作りの木製ベンチと椅子が置いてあり、学校が見下ろせます。
- 裏山と安っさんの丘・鷹見岩……学校の北側にあります。中腹に平成20年に整備された「安っさんの丘」があり、デッキが作ってあります。鷹見岩と呼ばれる岩の上からは豊田市内が一望できます。
- 一ノ瀬川・桜田川……矢作川の支流で、わくわく山のふもとを流れています。
- 田んぼ……オイスカ中部日本研修センターの皆さんと一緒に、田植えや稲刈りをします。
- ビオトープ……平成12年から16年にかけて、休耕田を借りて作られました。黒メダカ・カワバタモロコなどの絶滅危惧種の他、豊田には多いものの全国的には珍しい、コウホネが生息しています。



今後の夢、希望、活動計画など

学校を訪れる人はみんな、「恵まれているね。幸せだね。」とおっしゃいます。私たち鷹見っ子は、自然いっぱい生き物いっぱいの中で、育っています。地域の人たちに協力してもらったり、講師の先生方から教えてもらったりすることも多いです。先輩から代々受け継いできた活動もあります。

そのことに感謝しながら、もっと自然を大切にし、もっと自然について学び、自分たちにできることを探していきたいと思います。この「鷹見の里」が、いつまでも私たちの大好きな豊かな里でありますように。



『鷹見の里』から“いのちの輝き”を見つけよう

愛知県豊田市立上鷹見小学校

5年 島村祥光・中山捷希・御沓奈々・丹羽萌々音

1 学校紹介

自動車産業が盛んな豊田市東北部の山あいにある。明治5年創立、139年の歴史。全校児童25名。

2 「鷹見の里」の紹介

<わくわく山>

竹や柿、栗、コナラ、紅葉などが生える。野鳥の音が響く。

<裏山と安っさんの丘・鷹見岩>

カシ・マテバシイ・コナラ・アベマキなどが生えている「裏山」「鷹見岩」と呼ぶ大きな岩がごろごろ。ターザンごっこができる「秘密基地」「安っさんの丘」で、休憩や昆虫の観察

<一ノ瀬川・桜田川>

たくさんの水生生物がいる。絶滅危惧種のホトケドジョウもいる。

<田んぼ>

オイスカ中部日本研修センターのアジアの国の皆さんと、田植えや稲刈り。

<ビオトープ>

「きらきら池」、「どきどき池」「田んぼの水族館」がある。黒メダカ・カワバタモロコなどの絶滅危惧種、珍しい植物コウホネ。



3 活動紹介

(1) わくわく学習（生活科、総合的な時間の学習）

- ・低学年→昆虫・水生生物・木の実採集や山登り
- ・中学年→ササユリの観察・保護活動
- ・高学年→自然観察会の企画・山や川の環境維持活動

(2) ササユリ保護活動

学校のシンボル「ササユリ」が、突然激減。1983年から保護活動が始まる。

<ササユリ開花予想・標語募集・フォトコンテスト（5～6月）>

<ササユリ集会（6月）> 校区自然愛護会の会長さんのお話
ササユリ調査・自然観察会

<鷹見の里を歩こう会（5月）>

地域の皆さんと、看板設置、本数調査、下草刈り

(3) 水生生物調査（6月）

川に生息する生き物を指標に、水質を調べる。
サワガニ、トビゲラなど、毎年多く見つかる。

(4) 環境デー（10月）

資源回収、ゴミの再利用や地球温暖化についての学習。
間伐した木材を利用した整備活動（階段・はしご・テーブルセット）

(5) 竹炭作り

竹林になるのを防ぐ。竹炭・竹酢液の利用
（川の浄化、トイレの消臭、プレゼント、害虫よけ）

(6) 環境を考える会やコンクール

長年続く上鷹見小の活動を広め、他校の活動を知る機会。積極的に参加。

4 わたしたちの思い

自然・生き物・地域の人たち・講師の先生方・先輩への感謝

「もっと自然に学びたい。」「自分たちにできることは何だろう?」「鷹見の里よ、いつまでも!」

愛鳥活動による里山保全活動

愛知県岡崎市立 生平小学校

6年 南壮馬・本間結莉愛

学校紹介

本校は岡崎市のほぼ中央部に位置し、全校児童86名の小規模校である。学区は自然環境が豊かである。その自然環境を活用して、昭和57年から全校児童で愛鳥活動を軸にした環境保全活動に取り組んできている。巣箱の架設や給餌台の設置などの活動により、野鳥を保護し、地域の山林を守り育ててきた。平成22年には学区に「蛍流の森」が整備されたのに伴い、里山整備の活動を愛鳥活動に取り入れている。



蛍流の森

活動場所の紹介

活動場所は、学校の裏山、裏山遊歩道、蛍流の森の3か所である。学校の裏山は、昭和53年に児童とPTAとにより「小鳥の森」と「緑の教室」として整備された。裏山遊歩道は、平成14年にPTAが主になり地域の方から山林を借用する形で整備された。学校の裏山と裏山遊歩道は校地と隣接している。蛍流の森は、平成22年に岡崎市が遊歩道として整備し、地域の団体がその後の管理を行っている。蛍流の森は学校から500m程の距離である。



学校の裏山

今後の夢、希望、活動計画など

本校の愛鳥活動を軸にした環境保全活動も、23年度で30年目を迎えた。親子2代に渡って愛鳥活動に取り組んでいるという家庭も多くなっている。そこで、愛鳥活動を40年、50年と継続し、親子三代で愛鳥活動に取り組んでいる家庭が出てくようにしたい。そして、子どもたちに自然との共生感覚を身につけさせると共に、地域住民の環境保全の意識を高めていきたいと考えている。そして、「環境保全の生平地区」と呼ばれるようにしたいと考えている。



裏山散歩道

活動テーマ 愛鳥活動による里山保全活動

おいだいら
愛知県岡崎市立生平小学校
6年 南 壮馬・本間結莉愛

1、学校の紹介

私たちの生平小学校は、江戸幕府を開いた徳川家康の生まれ故郷である岡崎市にある全校児童86名の学校です。学校周辺や学区の自然環境を活用して、昭和53年から学校林での愛鳥活動に取り組んでいます。

2、愛鳥活動の歴史と主な活動場所

昭和53年に学校の裏山を整備して「小鳥の森」と「緑の教室」を作り、野鳥の保護のために巣箱をかけたり給餌台を設置したりしました。平成15年には、地域の方から山林を借りて「裏山遊歩道」を整備しました。平成22年には、生平小学校の近くの荒れた山林が里山として整備され、「蛍流の森」と名づけられました。これらを愛鳥活動の場所として活用しています。

3、愛鳥活動の内容

(1) 野鳥を知る活動

30年間継続して全校児童で学校周辺の野鳥観察とツバメの営巣調査に取り組み、観察データの蓄積と分析を行い、地域の自然環境の変化をとらえています。また、巣箱を架設して野鳥を繁殖させることで自然界の食物連鎖のバランスを保ち、山林を保全しています。自然餌が乏しくなる冬季には、野鳥のための給餌活動を行っています。さらに、野鳥が好む実のなる樹木を植樹し、野鳥に種を運搬させることで樹木を増やしています。

(2) 野鳥を守る活動

自然環境の変化に伴い営巣に適した環境が乏しくなった野鳥のために、カワセミ用巣箱など7種類の巣箱を架設しています。学区に飛来するオシドリ保護のためにドングリを集めて給餌しています。また、校地内にバードバスなどのビオトープを作っています。また、巣から落ちたひな鳥、放置されたキジなどの卵、傷病鳥などの野生生物の保護を行い、自然に戻しています。さらに、野鳥が窓ガラスに衝突する事故を防ぐためにバードセーバーを貼り付けることや「ひなを拾わないでキャンペーン」などの活動を行っています。

(3) 愛鳥活動の輪を広げる活動

愛鳥活動の成果を「ふるさと愛鳥新聞」・「学校新聞」・「ホームページ」等で情報発信しています。毎年、愛知県野生生物保護実績発表大会などで、本校の愛鳥活動の情報発信と他校との情報交換も行っています。また、「野鳥を知ろう集会」や「ふるさとタイムまとめ発表会」を保護者や地域住民にも公開して開催し、愛鳥活動の輪を広めています。



学校周辺の自然



小鳥の森での巣箱かけ（53年）



カワセミ用巣箱とビオトープ ヒヨドリ保護



第30回野鳥を知ろう集会（23年）